

北海道地区私立大学図書館協議会
2006年度第1回業務研究会

高校の情報教育と
大学図書館の情報リテラシー教育

奥村 稔

北海道札幌北高等学校

okumura@satsukita.ed.jp

2006年7月14日(金) / 14:30~16:30 / 北海学園大学

お話しする内容

1. 大学における「情報リテラシー教育」
 - 1-1 高校教師がリサーチした大学図書館
 - 1-2 大学図書館の目指す「情報リテラシー教育」
2. 高校における情報教育
 - 2-1 今どきの高校生
 - 2-2 情報科における教育(一般論)
 - 2-3 札幌北高校での情報科の授業
3. 大学図書館への期待

1. 大学における「情報リテラシー教育」

1-1 高校教師がリサーチした大学図書館（役割）

- これまでの図書館
 - アナログメディアのアーカイバ
 - リファレンス・サービス
 - オンラインデータベース
- これからの図書館
 - マルチメディア情報の扱い
 - 総合サービスセンターとしての役割
 - 統合的情報データベースの管理運用
 - 学習・研究コミュニティの核

1. 大学における「情報リテラシー教育」

1-1 高校教師がリサーチした大学図書館（組織）

1. 提携業務（整理・閲覧）のアウトソーシング
2. 運営への学生の参加
3. 情報技術（ICタグ）の進展によって起こる、要請される司書技術の変化
4. 司書の育成

1. 大学における「情報リテラシー教育」

1-2 大学図書館の目指す「情報リテラシー教育」

- **社会的文脈における課題**

- 情報通信環境の変化・進展に伴う、情報検索などにおける利用者行動様式の変化
- 社会環境の変化に伴う、利用者ニーズの変化（潜在的なものを含む）
- 図書館員（司書）の知識や技能の変化への対応やスキルの向上

- **図書館における情報リテラシー教育**

- 図書館（を介して利用できる資料や情報）を利用する知識や技能（i.e. 図書館リテラシー）が目標

情報リテラシーの必要性

情報のマルチメディア化(デジタル化)

情報のマルチチャンネル化

情報の大量化(収集から選択へ)

ノンフィルタ状態の情報(出展、妥当性・信憑性)

マス・メディアからパーソナルメディアへ

パーソナル

コミュニティ

ソーシャル

情報リテラシー

情報テクノロジー(PCリテラシー)

生涯教育

関係三者の協働

1. 講義やディスカッションにおいて、学習手段を確立する。
2. 未知の学問分野を探求するように学生を啓発する。
3. 情報ニーズの満足のさせ方をガイダンスする。
4. 学生の進捗状況をチェックする。

教員

1. プログラムとサービスに関する知的資源を評価し選択する。
2. 所蔵資料と情報へのアクセスポイントを組織化し維持する。
3. 情報を探索する学生と教員を指導する。

図書館員

1. 教員・図書館員・情報リテラシーのプログラムを提供する専門家に対して、協働と研修の機会を設定する。
2. プログラムの計画立案と資源確保に主導権を発揮する。
3. これらを維持するために、継続的な資源を提供する。

経営管理者

高等教育のための情報リテラシー能力基準

(Information Literacy Competency Standards

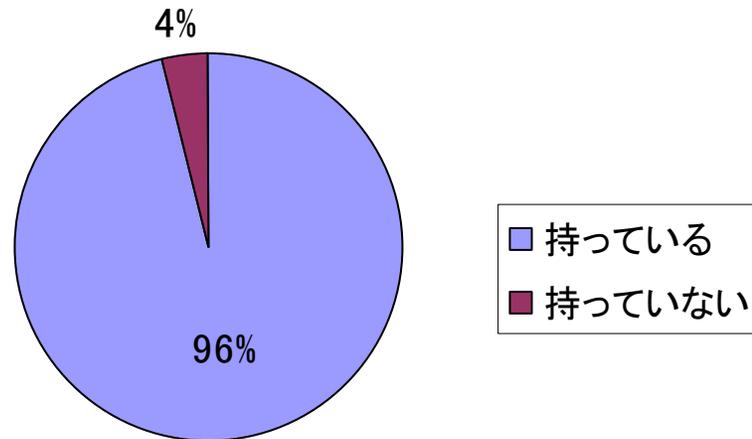
for Higher Education / approved by ACRL Board. January 18, 2000)

1. コストや便益を考慮して必要とする情報の種類、性質、範囲を決めることができる
2. 必要とする情報に効果的・効率的にアクセスできる
3. 情報と情報源を批判的に評価し、選択した情報を自身の知識ベースと価値体系に組み入れることができる
4. 特定の目的を達成するために、個人またはグループの一員として、情報を効果的に利用することができる
5. 情報の利用、アクセスに関する多くの経済的、法律的、社会的な問題を理解し、倫理、法律にかなった方法で情報を利用することができる

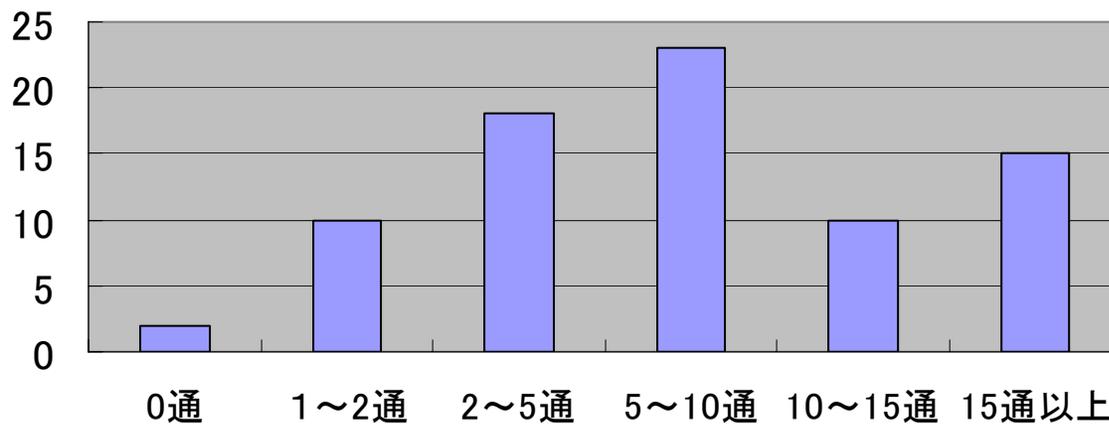
2. 高校における情報教育

2-1 今どきの高校生（札幌北高校）

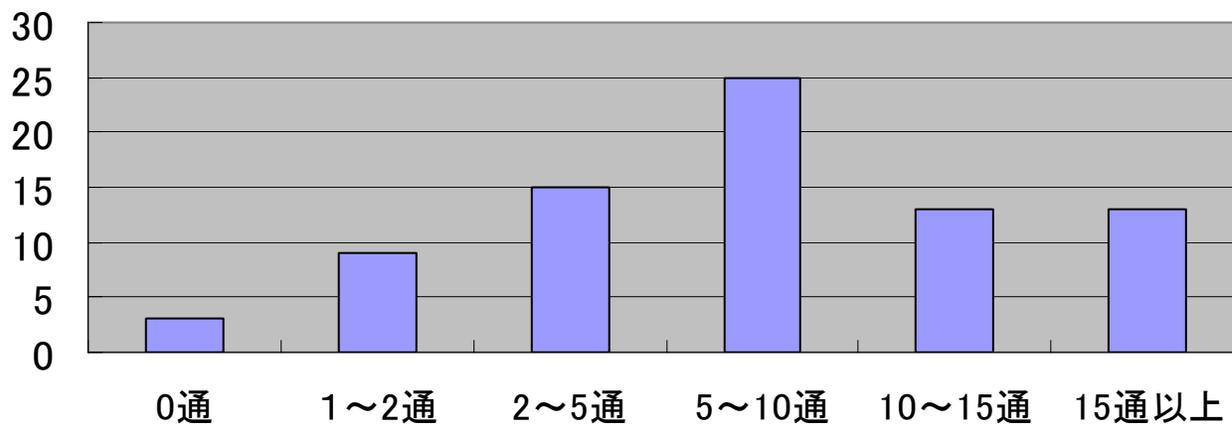
(1) 携帯電話を持っていますか。



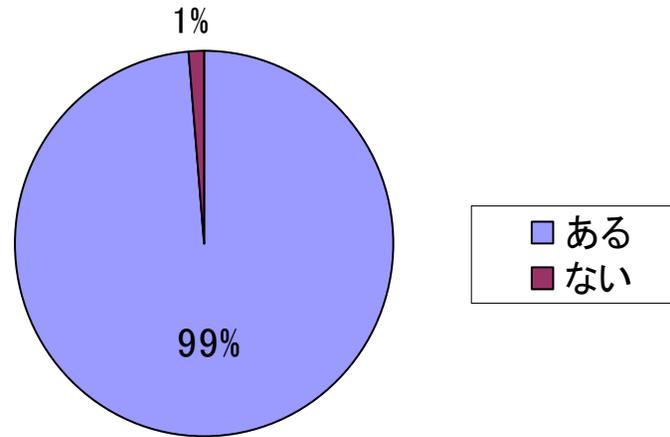
(2)携帯メールの1日の送信数



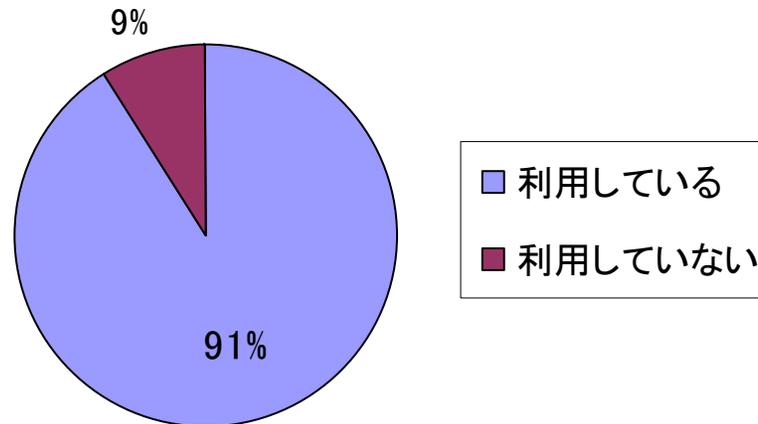
(3)携帯メールの1日のスパム数



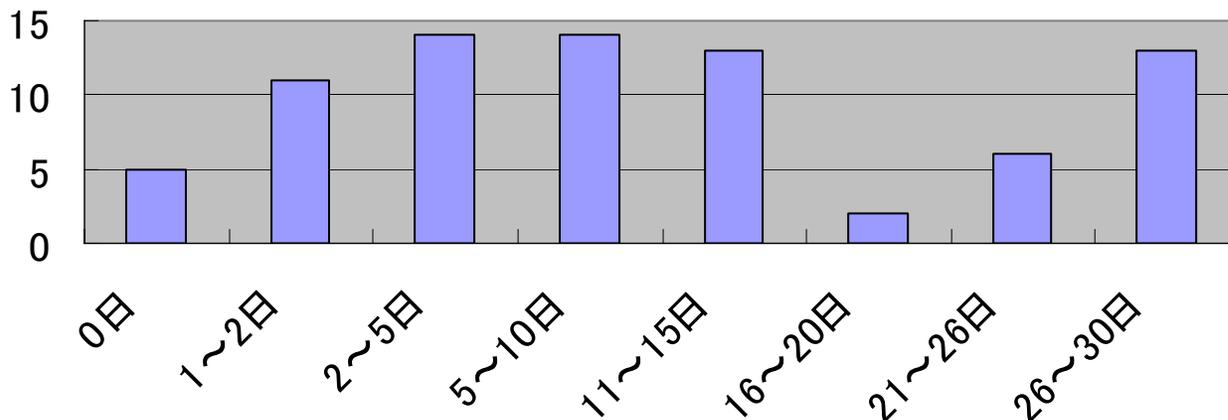
(4) 自宅でのPC所有



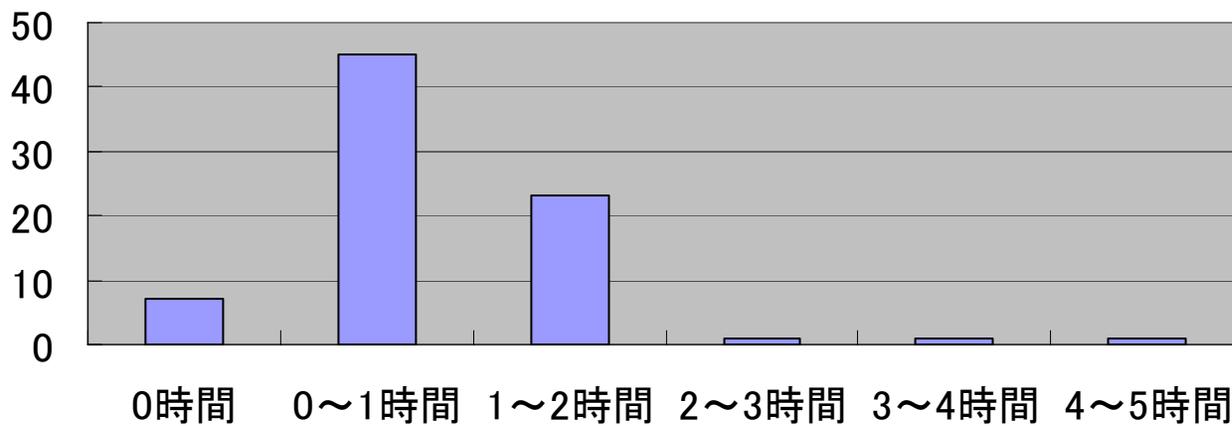
(5) 自宅でのインターネット



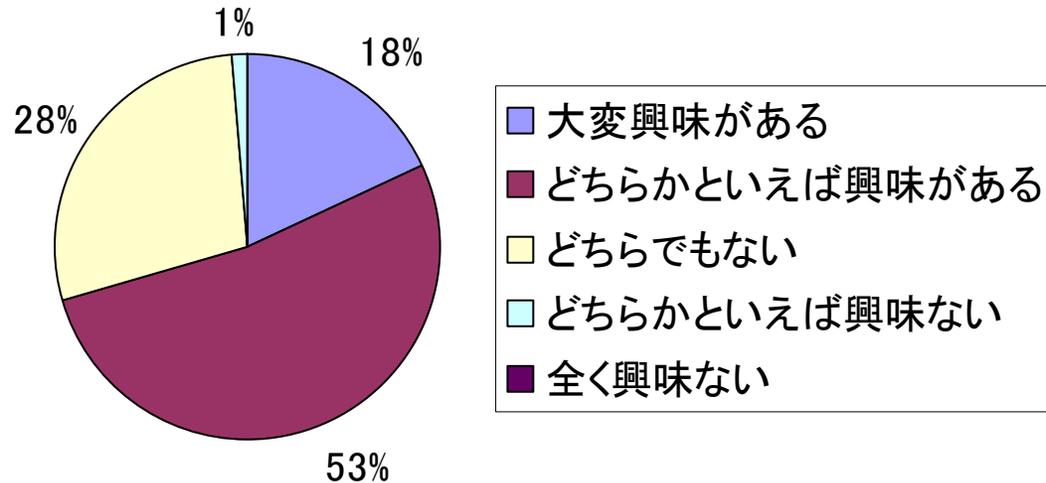
(6)PCの月平均利用日



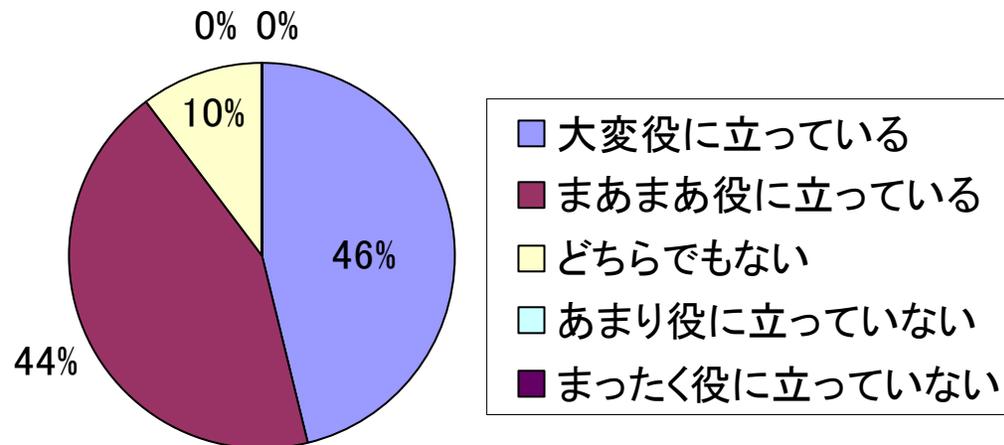
(7)PCの1日平均利用時間



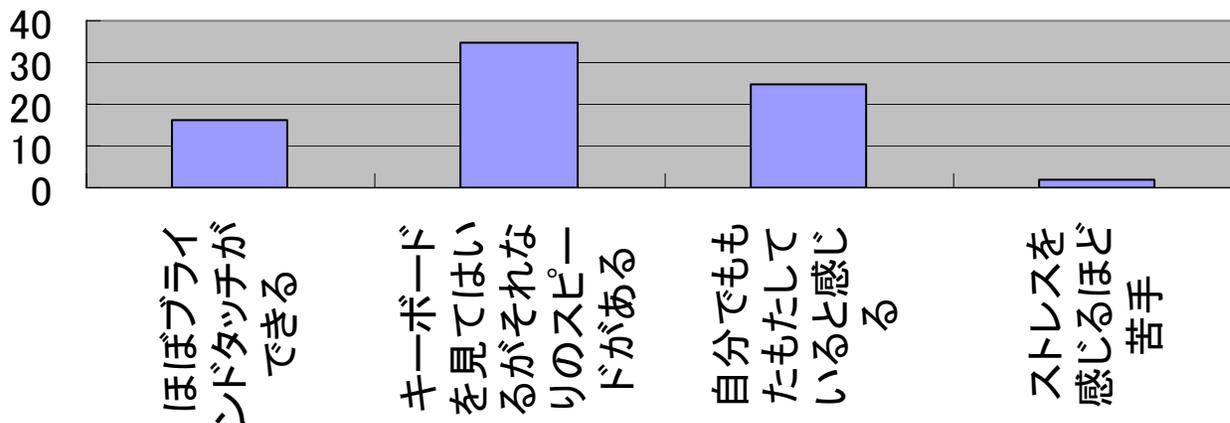
(8)PCやネットに興味があるか



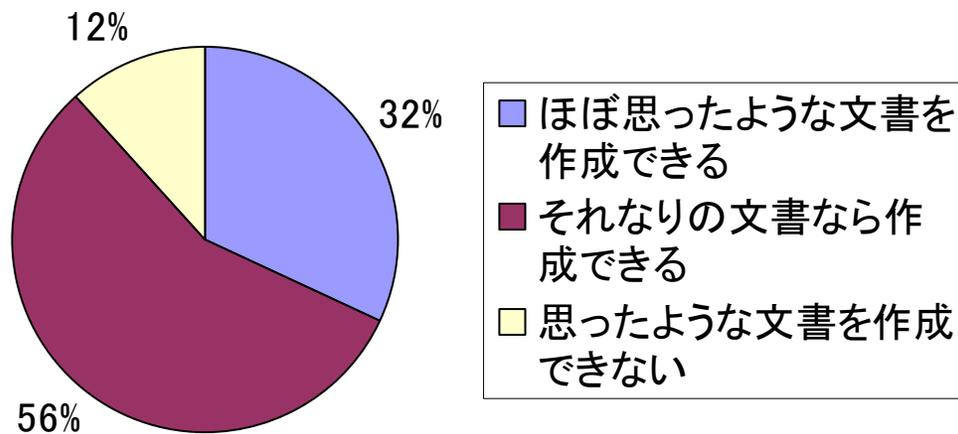
(9)PCやネットは役に立っているか



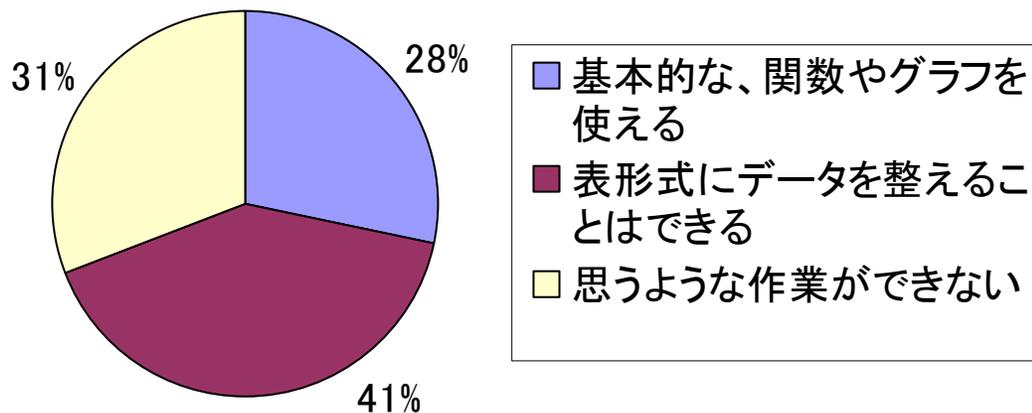
(10)キーボードによる入力



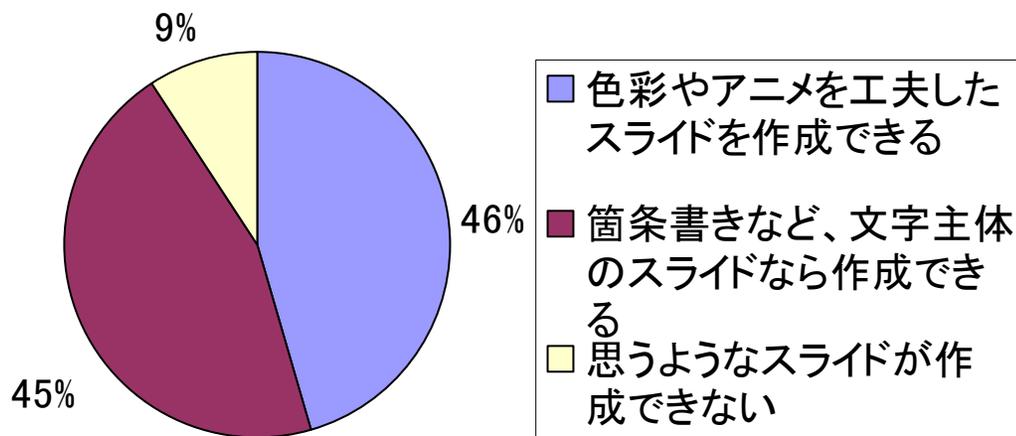
(11)ワープロによる文書作成



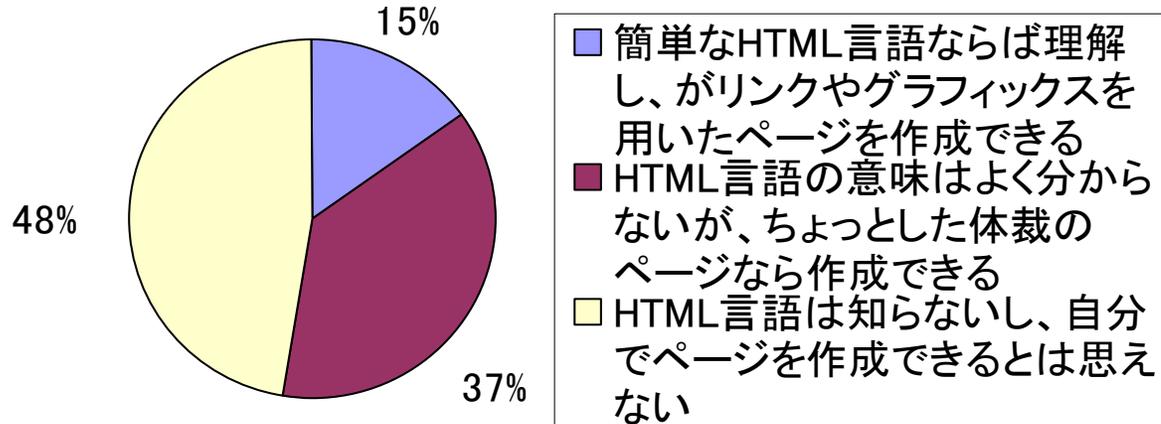
(12)表計算ソフトを使った帳票作成



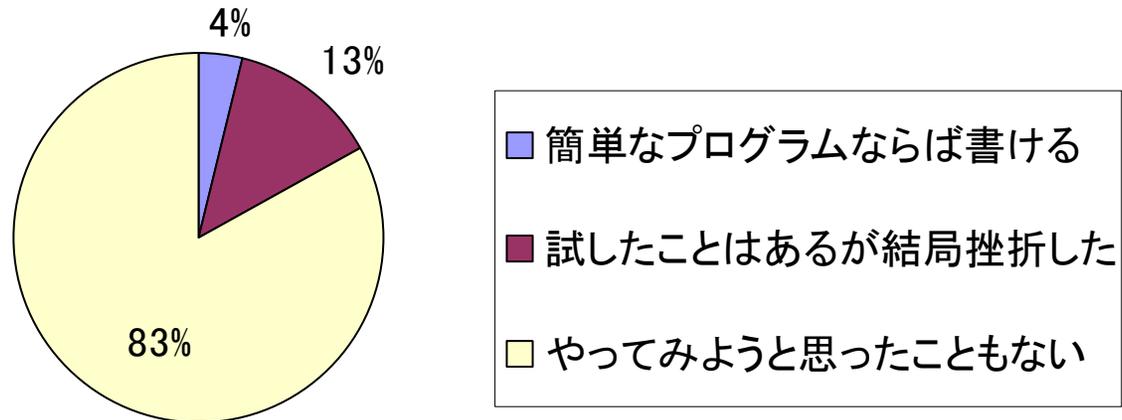
(13)スライドを用いたプレゼンテーション



(14)HTML言語を使ってWebページが作成できますか



(15)プログラミングはできるか



2. 高校における情報教育

2-2 情報科における教育(一般論)

	情報活用の実践力	情報の科学的理解	情報社会に参画する態度	中心となる学習内容	想定対象
A	実践を通じた基本的技能の育成	帰納的理解	体験的理解	活用経験が浅い	コンピュータや情報通信ネットワーク
B	さらに高める	問題解決を通して理解を深める	技術の在り方から考える	コンピュータに興味関心を持つ	コンピュータの仕組みやコンピュータを活用した問題解決
C	さらに高める	併せて育成する	実際の調査活動を通して育成する	情報社会やコミュニケーションに興味関心を持つ	情報の表現やコミュニケーション

2. 高校における情報教育

2-2 情報科における教育(一般論)

評価規準の作成, 評価方法の工夫改善 のための参考資料(高等学校)

-評価規準, 評価方法等の研究開発(報告)-

- 四観点「**関心・意欲・態度**」「**思考・判断**」「**技能・表現**」「**知識・理解**」による評価規準(基準)と、それを用いた具体的な評価方法の研究(例示)
- 各学校の実態に合わせてアレンジをして参考にしてもらう

2. 高校における情報教育

2-3 札幌北高校での情報科の授業(実施方法)

- 1年生
 - 毎週65分授業1回(1.5単位)
 - 実習を通じた実感を伴う学習
 - 期末考査は国語の試験以上の記述・論述
 - 教科書の内容は自学自習
- 2年生
 - 隔週65分(0.5単位)
 - 総合的な実習
 - 期末考査はなし
 - ワークシートやレポートでの自己評価や相互評価

2. 高校における情報教育

2-3 札幌北高校での情報科の授業(学習内容・方法)

- 当たり前前のシラバス提示
 - 年間学習計画の例を示します
- 学習指導案(スタディプラン)の配布
 - スタディプランの例を示します
- 評価規準と評価基準の設定・公表
 - 評価基準表(ルーブリック)の例を示します
- 教科書・授業・考査と評価
- 評価したいことから学習目標設定

3. 大学図書館への期待

情報リテラシー

サービスセンター

マルチメディア

コミュニティの核

情報活用能力

情報の科学的理解

情報社会に参画する力

情報教育

情報処理能力(PC・ネットに対するリテラシー)

3. 大学図書館への期待

- 1. 紙(上・神)メディアからの脱却**
 - 加味・噛み・加美メディアへの移行
- 2. 学習者・研究者のコミュニティ形成・運用**
 - 情報のコミュニティ
- 3. 情報の管理者から編集者・プロデューサへ**
 - Wiki的な場の提供
- 4. Googleとの対決**
 - 古くて役立たない情報
 - 自分の求めるものとは違うノイズ
 - 図書館2.0(すべてを検索可能に・ロングテール)
- 5. 高等学校の情報科カリキュラムの研究**
 - 高校現場との共同、協働研究
 - 日本版情報リテラシー基準の策定

参考にしたもの

- 2005 年度 第4 回館長会 会議録
「大学図書館利用者サービスと組織改革」
 - <http://www.jaspul.org/east/pdf/kanchou2005.pdf>
- 国立国会図書館
カレントアウェアネス No.278 2003年12月20日
 - <http://www.ndl.go.jp/jp/library/current/no278/doc0008.htm>
- 「高等教育のための情報リテラシー能力基準」
 - <http://www.ala.org/ala/acrl/acrlstandards/InfoLiteracy-Japanese.pdf>
- 高等学校学習指導要領解説(情報編)
 - 平成12年3月 文部科学省
- 国立教育政策研究所の評価規準
「評価規準の作成, 評価方法の工夫改善のための参考資料」
 - 評価規準, 評価方法等の研究開発(報告) –
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/kou-sankousiryu/html/index_h.htm
- Web進化論 梅田 望夫 筑摩書房 2006